



LD等発達障害児・者親の会
「けやき」機関紙

第119号

2019年12月発行

発行者・代表 廣瀬登士子 〒195-0057 東京都町田市真光寺 2-13-11
けやきホームページURL [http:// keyakitokyo.web.fc2.com/](http://keyakitokyo.web.fc2.com/)

1月16日(木)

要望書 回答日

あっという間に



秋が過ぎ、今年もあと1か月を切りました。気候がなかなか安定しなかったせいか、早くからインフルエンザも流行し始め、街にはマスク姿の人がとても多いように思います。何かと気忙しく疲れもたまる季節だからこそ、皆様どうぞ十分ご自愛なさってください。

さて、今年度の大きな活動の一つとして、11月24日(日)に、にんじん村さん・ルピナスさん・けやきの親の会3会合同で勉強会を開催致しました。東京都発達障害者支援センターの方に講師をお願いし「社会とつながるために、働き続けるために」をテーマとしてお話していただきました。今回も親の会のメンバーだけでなく支援関連の方や福祉を学ぶ学生さんもお参加くださり、「内容が濃かった」「参考になった」等の感想を頂戴しています。(詳しくは会報内をご覧ください。)

次の大きな活動として、9月に都庁へ提出した要望書の回答日(意見交換会)が2020年1月16日(木)に予定されています。要望書への回答を伺うだけでなく、都へ自分たちの意見を直接伝えることができる良い機会です。詳しい時間等は後日お知らせ致しますが、当日ご都合のつく方がいらっしゃいましたら、ぜひご参加ください。



にんじん村・ルピナス・けやき3会合同勉強会 報告

日時：令和元年 11 月 24 日（日） 13 時 30 分～16 時

場所：三軒茶屋らぷらす 研修室 1

今年度は東京障害者支援センター（TOSCA）の相談支援員・柏木様を講師としてお招きし、「社会とつながるために、働き続けるために」をテーマに、「就労支援の現状」から「支援機関の利用について（どんな支援があり、どのように利用するか）」、「社会とつながり働き続けるためにだいじなこと」をお話いただき、福祉を学ぶ学生さんや支援関連の方も含め、27 名の方にご参加いただきました。

子どもの年齢が比較的高い方々には、前半部分は「復習」のような形になってしまったかも知れませんが、繰り返し学び直すことで、「働きつづけるために」という後半のテーマにスムーズに繋がったのではないかと思います。

無理なく仕事が続いている人や良いペースで生活できている人は、『①自分の特徴や周りの環境と適度に折り合いをつけてやっていけている、②自分で納得して決めた自分主体の暮らしをしている、③「暮らしやすさ」を上げる自分なりの方法を知っている』のだそうです。自分に合った方法や手段を探すには、基本的には「実体験、トライ＆エラー、微調整の繰り返し」です。子どもが失敗して落ち込まないように、（本人が決めるのではなく）親が方向を決めてサポートし続け、トライ＆エラーを避けてきた私は、子どもの自立を望んでいるのに結局自立のための練習機会を潰してしまっていたと、多に反省させられました。

また、「働ける」ためには「休める」ことが重要です。身体や頭を休めるためには、『①自分の好調・不調を実感として把握できるか、②自分を休めるやり方を知っている、③不調の「前兆」を把握している』ことが大事で、自分で「前兆」が分からない場合は、調子が悪くなった時に起こったことを覚えておいたり、人から何か違う様子がなかったか指摘してもらったりしても良いようです。どんな休み方が自分に合っているかを探して（いつもと違う何かをする、何もしない、ひたすら眠る等）、休む方法や休み方のバリエーションを増やすのも大切だということでした。

講演後は 1 時間程度時間を取って、「質疑応答」を行いました。普段 TOSCA の方とお話する機会はあまり多くないため、講演の内容以外でも質問を受け付け、先生には細かいことまで丁寧にお答えいただきました。（TH）

～*～

今までたくさんの講演会や勉強会に参加してきましたが、今日の勉強会でそれらの情報がスッキリと頭の中で整理され、とても良かったです。

後半の「自分に合った方法探し」の中では「できない努力をして疲れ切るよりも、環境、方法、道具を変える。いかに省エネできるか考える」との提案に深くうなずきまし

日本LD学会 第28回大会（東京）報告

LDの「定義」を再考する ～教育定義の誕生から〈20年〉の今こそ～

会期：2019年11月9日（土）～10日（日）

会場：パシフィコ横浜 会議センター

大会会長：小貫 悟（明星大学）

11月9日(土)、10日(日)の2日間で25会場、約72の自主シンポジウム、大会企画シンポジウム、教育講演等が行なわれ、今年は、全国から4000人の参加者が集まりました。また、全国の親の会が出典しているポスター展示の会場へも沢山の方が訪れ、各地域の会の内容に関心が集まりました。(N)

＜ポスター展示＞

全国各地の親の会（20件）からポスターによる参加があり、各親の会の特色や活動内容等を紹介していました。「けやき」では、今回初めてポスター用紙（B1：728×103）に直接印字しました。記載内容は『1988年に設立しました。東京都全域と近隣県に在住するLD（学習障害）等の発達障害児・者を持つ親や保護者の会です。会員同士の交流と学習の場となることを目的に毎月の例会を設け、社会に対しLD等発達障害の正しい理解と支援を求める活動をしています。』などです。

＜全国LD親の会懇親会＞

11月9日(土)19時から会場近くのマルカミ食堂にて、親の会懇親会が行われました。

懇親会会場に向かう途中では、早くもクリスマスツリーが飾られ、華やかな気分の中、会場に着き品川祐香さんを迎えて懇親会が始まりました。久しぶりの再会の方もいて、おしゃべりも止まりません。全国の親の集まりは、近況だけでなく、お互いの会の悩みや知恵を頂く機会でもあります。また、会長からは、ブックレット(仮称)作成の協力要請のお話もあり、改めて力を結集する時と感じました。神奈川にじの会様、お忙しい中会場予約、司会進行など、ありがとうございました。各会の皆様、お疲れさまでした。(N)



令和元年度第1回東京都発達障害者支援地域協議会 報告

日時：令和元年8月2日（金）午後6時～午後8時

場所：都庁第二本庁舎31階 特別会議室27

（1）東京都に於ける発達障害者支援事業に関わる取り組み

ア 東京都の報告と事業予定

- ①平成30年度区市町村発達障害者支援体制整備推進事業（包括補助）実施状況
早期発見・早期支援のみ実施⇒28区市町村、成人期のみ実施⇒2区市、早期発見・早期支援、成人期ともに実施⇒10区市
- ②令和元年度発達障害児（者）支援事業 取り組みのポイント
発達障害者地域支援マネージャーによる地域支援体制の強化、ペアレントメンター養成・派遣事業実施による家族支援の充実、発達障害者生活支援モデル事業の実施、「発達障害者支援ハンドブック」の改訂

イ 東京都発達障害者支援センター(TOSCA)の報告～地域支援マネージャー関連～

- ◎地域連携会議に参加できなかった区市町村については個別訪問し、会議の報告と情報交換を行っている。
- ◎自治体によって利用できる社会資源や財政基盤に違いがあり、体制に大きな差が見られるが、それぞれ特色を活かした取り組みが検討・実施され始めている。
- ◎家族支援に意識的に取り組んでいる区市町村も一部には出てきているものの、全体的には進んでいない。
- ◎就労段階でない人の居場所支援に課題がある。

ウ ペアレントメンター養成・派遣事業について

- ◎独自事業として事業展開中⇒三鷹市、足立区、新宿区、中野区

【参加委員より出された意見と回答】

TOSCA、区市町村、都が親の会の活動を十分把握していないため、ペアレントメンターが広がらないのではないか。⇒（TOSCA 回答）区市町村がペアレントメンター事業をやろうという気持ちになっていない。今はまだ耕している状態。

（2）令和元年度の東京都の取り組みについて

ア 発達障害者支援普及啓発事業（発達障害者支援ハンドブックの改訂）

①改訂版ハンドブック内容（案）

現行ハンドブック（2015版）記載項目は現行法規に基づいた情報に更新。ペアレントメンター養成派遣事業、成人期発達障害者生活支援モデル事業、アセスメント用チェックシートを新たに追加。

- ②ハンドブック掲載医療機関の情報の調査、都内医療機関に於ける発達障害に関する初診待機状況等の調査も実施する予定。（TH）

関東ブロック会議 報告



令和元年 9 月 15 日（日） 午前 10 時～午後 4 時

港区立障害保健福祉センター7階 竹芝小記念ホール

例年より少し遅い時期になりましたが、今年度 1 回目の関東ブロック会議が開催され、6 月に行われた全国LD親の会総会・評議会について、文科省や厚労省への予算要望内容、教員や支援者の専門性の在り方に関する検討会について等、様々な報告がありました。

中でも私が注目したのは、「親の会ブックレット」についてです。親の会だからこそ作成できる内容を、テーマを決めて冊子化していくというもので、既にブックレット作成委員会が立ち上がり、けやきからも参加して下さっている方がいらっしやいます。近々出版社へのプレゼンテーションがあるということで、今回のブロック会議では、その予行演習も行われました。

企画趣旨やブックレットにする理由など、発表者の丁寧な説明を聞いていると、自分が子育てに右往左往して、何とか親の会にたどり着いた頃のことを頭に浮かんできました。今はインターネットで検索すると知りたい情報が簡単に得られて便利ですが、それは単なる知識でしかないこともあります。しかし、ブックレットにはお互いに顔を合わせた支え合いの場（＝親の会）で得られる、より深い経験談が載るとのこと。今の若い保護者の皆さんはとても忙しい方が多いと聞いています。その中で難しい子育てをするのはどれほど大変なことでしょうか。ブックレットはぜひそのような方の役に立ってほしいですし、同時に冊子を通して親の会の活動を身近に感じていただけたら・・・と思いました。

（TH）

.....

同日の午後からは2つのグループに分かれ、テーマを自分たちで決めて、グループ討議を行いました。私たちのグループでは、自分が住んでいる地域でどんな支援機関があるか、それぞれの親の会がどうつながっているか等を話し合いました。

幼児や小児、せいぜい中学生までを対象とした支援機関はあるが、（卒後からではなく）高校時代からの継続支援や一生涯の切れ目のない支援が、まだまだ不十分であるという話がありました。また、あっても一貫した支援や居場所づくり等、民間に頼るところが大きい、との意見もありました。民間が決して悪いわけではないですが、レベルや質がまちまちな状況です。結局は“人”の問題なのかもしれませんが、私たちもしっかりと状況を見極め、要望を伝えていく必要があると思いました。

（YA）



